

第9回国立公園満喫プロジェクト有識者会議
議事要旨

1. 日時：平成30年8月7日（金）13:00～15:00
2. 場所：航空会館 501+502 会議室
3. 出席者：

（政府側）

中川雅治環境大臣、とかしきなおみ環境副大臣、森本英香環境事務次官、鎌形浩史大臣官房長、正田寛自然環境局長、鳥居敏男大臣官房審議官、中尾文子国立公園課長、池田幸士自然環境整備課長、井上和也国立公園利用推進室長、辻本慎太郎国立公園官民連携企画官、水崎進介国立公園課課長補佐、鄭然凡 JNTO 企画総室次長、中野亨林野庁経営企画課国有林野総合利用推進室長、英浩道観光庁観光地域振興部観光資源課長

（有識者・50音順、敬称略）

デービッド・アトキンソン（小西美術工藝社社長）

石井至（有限会社石井兄弟社社長）

江崎貴久（旅館海月女将、有限会社オズ代表取締役）

ロバート キャンベル（国文学研究資料館長）

野添ちかこ（温泉と宿のライター）

涌井史郎（東京都市大学環境学部特別教授） 座長

4. 議事概要

○中川環境大臣より冒頭挨拶

- ・ 本日はお忙しいところ、第9回国立公園満喫プロジェクト有識者会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。
- ・ 2016年に国立公園満喫プロジェクトにおいて先行的・集中的に取り組む8つの国立公園を選定して以降、これらの国立公園で中心的に取り組を進めてまいりました。今年度は本プロジェクトの中間となる年になりますので、中間評価を行い、さらに効果的に取り組を進めてまいりたいと思います。
- ・ 本日は、前回の会議でご助言いただいた中間評価の結果を踏まえ、年次計画を含む本プロジェクトの今後の進め方についてご説明させていただきます。その後、2020年までに訪日外国人の国立公園利用者数を国立公園の保護と利用の両立を図りながら1,000万人にするという目標の達成に向け、取組を加速化させていくためにどうすべきか、といったことについて有識者の皆さまからご助言をいただければと思います。
- ・ なお、取組の加速化に当たり、国際観光旅客税を活用することも考えられます。税の負担者の納得が得られるか、先進性が高いか、地方創生に役立つものか、といった観点も含めてご助言いただきたく思います。

- ・ どうぞよろしくお願い申し上げます。

○資料確認

議事（１）国立公園満喫プロジェクトの実施について

○事務局から資料１－１、資料１－２、資料２に基づき説明

【涌井座長】

- ・ 委員の意見を具体的に反映して先行 8 公園における取組が進捗していること、そして、前回会議で議論をした満喫プロジェクトの中間評価を踏まえて進めていこうとしている今後の取組について、説明していただいた。
- ・ 本日は、2020 年までに 1,000 万人の数値目標がある中で、一層取組を加速化しないと目標の達成ができないとすると、具体的にどうすれば良いのか、ご意見をいただきたい。
- ・ また、施策の実行のためには財源がある。そして、財源の中では国際観光旅客税の予算を導入していきたい。地方創生には確実に役に立つこの予算を、環境省としてどう獲得していくのか、その意義についても意見を頂戴したい。
- ・ 量・質ともに国立公園を楽しめる構造を 8 公園の中でどう具体的に実現していくのか、そのための今後の進め方に資する議論にしていきたい、というのが今日の趣旨である。

【江崎委員】

- ・ 内容について、おおまかには良いと思った。
- ・ ただ、取組を具体的に進めるには、現場において民間が活力を発揮する必要がある。例えばその際に、プログラムや商品が多様化してくると、現場の細かな規制にも影響が出てくる。具体例で言うと、ライフジャケットにしても漁業者が使っているものとマリンスport事業者が使っているものは違う。その両者が地元で連携してプログラムを実施すると、場面ごとに船の上で付け替えるといった細かなことが出てくる。そうした細かな部分に今後どう対応していくのか。
- ・ 次に、二次交通について。二次交通は客層によっても利用する交通手段が変わるだろう。公共交通としてバスが充実していくのは結構だが、ハイクラスの人たちは使わないかもしれない。こちらも具体的な話で、エコツーリズム全体構想に基づいて認定されているガイドは送迎が可能となっていると思うが、そのことが明記されていないという問題がある。明記がされていないことで、B to B でビジネスをする際にビジネスチャンス逃がすことにもつながりかねない。
- ・ 施策とビジネスチャンスが今つながっていることを認識いただき、民間が取ったリスクに対して、行政が取るべきリスクを取ってもらって、「これのためにこれをした」ということを、分かるように発信していただきたい。

【涌井座長】

- ・ 現場で生じている細かな対応について、施策との間にミスマッチがあるという指摘だ。それらをどうひとつずつ潰していくのか。現場に経験のある方々の意見を集約した上で、いかに目的にあった規制緩和等ができるのかを取りまとめていただきたい。

○環境省より回答

- ・ 実態を集約した上で検討していきたい。
- ・ 全体構想に関するご意見の部分は、国土交通省にも確認を取っていきたい。

【涌井座長】

- ・ 最近、ツーリズム EXPO におけるグランプリの審査をする機会があった。そこで感じたのは、旅行業界において非常に水平展開が進んでいるということ。とりわけエコツーリズムにおける「質」の高さと最終審査に残ってくる「量」の多さには感心をした。自然とのコンタクト、アクセスのある旅行形態に関してマーケットとしての魅力が見出されてきていると感じている。
- ・ また、DMO に関連しては、広域連携しながら「雪」という資源を巧みに活用していく事例が見られた。旅行業界全体がこうした方向に感心が強くなってきたと感じる。
- ・ ただ、現実にもこうした取組を進めていこうとすると、様々な規制要件が出てくる。それら課題に対して、ユーザー目線でどういった良い方法があるかを考えながら、解決していく義務が我々にはあると考える。

【野添委員】

- ・ 地域の魅力を伝える上で、ガイドの手腕は非常に重要。同じ自然を見ても、その成り立ち・背景が分かってくると、より観光地の魅力も高まってくる。
- ・ しかし、日本全国で人材が不足しており、良い人材を獲得できるかどうかで事業の成り行きも変わってくるにも関わらず、地方では人材の減少が著しい状況にある。また、今後も人口減少・少子化が進むことが想定され、地域に人がいない状況がさらに顕在化してくることが想定される。
- ・ 自然相手のガイドは季節による需要の変動があり、専門にしづらい状況がある。実際に現地に行くと、宿泊施設の社員や、お土産屋の方がボランティアでガイドしている状態。専門の育成も重要なことだが、それだけでなく行政と共に観光業に従事する人の囲い込みを行い、マルチタスクでガイドもできる人材を育成していく考え方も必要ではないか。

○環境省より回答

- ・ 環境省では数年前から地域単位で人材育成事業を行ってきている。その事業では、地域

内でチームを作って申し込んでもらう仕組みにしており、必ず行政関係者をチーム内に入れてもらっている。そうした形で行政と観光関係者が関わる仕組みを作っている。

【涌井座長】

- ・ レンジャーの持っている知見には相当深いものがある。また、今回のプロジェクトを通じて民間採用の利用企画官も増えている。その意味で、レンジャーとガイド育成とで何らか連携ができないものか。

○環境省より回答

- ・ 各事務所に配置している利用企画官は、これまで民間の立場で観光に携わってきた人材であり、ポテンシャルも高いと思われる。そうした視点での検討も進めたい。

【江崎委員】

- ・ 人材に関して2点ほど申し上げたい。
- ・ 外国人の方に現場で働いていただきたいと考えても、必要な手続き作業が非常に遅いことが問題になっている。就職してもらうまでに申請が2ヶ月・3ヶ月遅れてしまうと、もうビジネスチャンスに間に合わなくなってしまう。
- ・ もうひとつはインターンシップの受入について。オリンピックに向けてインターンシップと民泊を組み合わせているような業者からの相談も増えており、「環境」と「産業」を組み合わせた欧米からの研究者などが日本でのインターンシップの受入を求めている例もあるが、受入先がない。受入は大変かもしれないが、そうした方々に地域に入ってもらい、地域も活性化し、地域の人材も育つことになる。

○環境省より回答

- ・ インターンシップと民泊を組み合わせている事例などについて、会議後に改めて情報いただきたい。

【涌井座長】

- ・ 今後の取組において、今は地域協議会において各行政機関がお互いにフォローし合って、総力戦で対応をしているが、主管官庁として環境省が独自の予算を持ってリーダーシップをとっていくことも大事な事。国際観光旅客税について、その現実性と課題はどうなっているのか。

○環境省より回答

- ・ 観光庁で取りまとめて一括計上して財務省に要求する形になっている。環境省としては、これから観光庁に相談をする状況。

○観光庁より回答

- ・ 国立公園満喫プロジェクトに関する部分は、これから環境省と調整する状況。今の時点で「これをやる」と決まったものはない。

【涌井座長】

- ・ 観光庁としては、環境省と調整しながら、観光施策全体に貢献するものなら柔軟に対応してくれるという理解で良いだろうか。
- ・ 地方の現場を見ると、地方の疲弊は想像以上のものがある。しかも、スーパーメガリージョン構想のように若手の生産人口を太平洋ベルト地帯に集めるようなことになると、ますますストロー減少で地方から若者が減少することにつながっていく。
- ・ そうした際に、地方でどうやって若者が生業として食べていくのか、観光業は非常に重要な役割を持っている。地方がどう活性化するか、その際に観光が重要な役割を果たすことは間違いない。

【江崎委員】

- ・ 伊勢志摩だと、その日のうちに漁業に行って帰ってくるスタイル。これは今の時代でもやりやすいライフスタイルになっている。
- ・ また、子どもたちにガイドをしてもらう「島っこガイド」の取組が始めてから10年ほど経つ。そうした中で、島っこガイドの卒業生から初めて漁業に就職する若者が出た。小さい頃から自分の地域の魅力に触れるきっかけを作ることも観光ができること。
- ・ いかに長期的に観光資源を守っていくかという視点においては、人も観光資源である。そのための教育に投資をすることは重要なことだと思う。

【涌井座長】

- ・ 2020年までに1,000万人という目標についてはどうか。

【アトキンソン委員】

- ・ 現在の数字だと、2018年で108万人増えており、そのあとは150万ずつ増えるという形になっているが、実務はどうなっているか。例えば、JNTOのホームページにおける国立公園の発信は進んでいるか。国立公園についての情報発信が2019年3月に始まるとすると、2020年まではあと一年何ヶ月ほどしか時間がなくなってしまう。そこから目標の1,000万人を達成できるかは疑問である。
- ・ 現在、8つの国立公園で整備が進められているのは適切なことであるし、整備してから発信するというのは、取り組む順番としては正しい。だが、いつになったら実際に発信を始めるのか。発信戦略をもっと早めた方が良いと思う。JNTOのホームページでも、国

立公園についての情報発信を来年3月に一気にアップするのではなく、早めに少しずつ発信していくのが良いと思う。

- ・ 先日、新宿御苑を見に行ったが、売店などの整備状況はほとんど昭和のままで、昔のイメージ通りであった。禁止事項ばかりで、歩くことと息をすることくらいしか許されていない。最近、新宿御苑は外国人に非常に人気であるにも関わらず、こんなに禁止事項が多いとなると、同じ環境省管轄の国立公園でも同じだと思われるのではないか。国立公園より先に、新宿御苑の整備も近代的にしたほうが良いと思う。
- ・ 入場料を200円程度しかとっていないのも問題である。200円なら、いっそのこと無料か1,000円にしてしまう方がいい。お金を取っていないことにより、整備や警備、手入れができていない。そうすると、維持のためには禁止事項を増やすしかない。できることがあまりにも少なく、つまらないものになってしまうのは悪循環だ。入場料を上げるのがダメなら、新宿御苑内の売店の収入をもっと増やしてもらい、そこからお金を出してもらうという方法もある。ともかく、新宿御苑の収入を増やさなければならない。
- ・ 新宿御苑が良ければ、同じ環境省管轄の国立公園への誘客も狙えるのではないか。現状では完全な逆効果となっている。トリップアドバイザーでは、「観光立国を目指しているのに、こんなにも禁止事項ばかりなのは面白い」という理由で新宿御苑を薦めるコメントがあるくらいだ。
- ・ ちなみに、二条城では、快適な場所にすることによって、47年ぶりに最高入場者記録を更新した。赤坂迎賓館などいろいろなところでカフェをやったり、国立博物館では屋台をやったり、様々な取組みを行っている場所もある。それらに比べて新宿御苑はあまりにももったいない。

【涌井座長】

- ・ アトキンソン委員の指摘の通りだ。国土交通省による、都市公園の民間活用という発想にも近い。都市公園で重要なのは、メンテナンス、管理であり、それをマネジメント、公園経営という考え方に変えていこうとしている。今、民間活力が非常に順調に動き始めているという事例があるので、そうした考え方を踏まえるのも重要だ。
- ・ アトキンソン委員の話にもあったが、1,000万人という目標達成のためには、情報発信が遅すぎるのではないか。また、新宿御苑のマネジメントの有り様が、国立公園で進めようとしていることと逆進しているように見えてしまう、その危険性をどうすれば良いか、という指摘があったかと思う。新宿御苑の思想が国立公園とつながってしまうことがないように考えていくことが重要ではないか。

○環境省より回答

- ・ おっしゃる通り、2020年に1,000万人という目標を達成するためには、整備を待ってから発信しては遅い。JNTOと連携する国立公園のホームページについては、急ぎ作業

を進めているところだ。いつまでに完成させる、ということはまだいえないが、急ぎ取り組んでいる状況。加えて、8公園でコンテンツ集というものを作成しており、それについてもホームページに載せる予定である。

- ・ 二段階目・三段階目の取組みとして、海外のOTAとも連携して、アクティビティの予約等ができる動線を確認したサイトを構築しようとしている。委員のご指摘も踏まえて、できることからやっていきたい。

【アトキンソン委員】

- ・ JNTOで海外事務所での情報発信の仕方を全面的に変えていこうという話があるが、ホームページにアップしていない限りは情報を使いようがない。1公園ずつだけでも、記事的なものだけでもいいから、もっと早く取り組んでいくべきだと思う。完成品ができるまで部分的には出さない、というのでは遅すぎる。情報発信はアップデート可能なものなので、少しずつ情報をJNTOに伝えてやってもらうといいのではないか。
- ・ 来年4月から改正文化財保護法が始まるが、今後は保存活用計画を正式に作成して提出することになる。各国立公園でも、保存活用計画を正式に作成してみても良いのではないか。
- ・ 今月から観光庁のアクティビティインキュベーターという事業が始まるかと思う。今までの例から考えると、予算よりは手を上げる人が少ないことが予想される。だが、アクティビティということで考えれば、国立公園の方がよりニーズが強いはずなので、この事業と国立公園満喫プロジェクトの連携がどうなるのか知りたい。

○環境省より回答

- ・ 新宿御苑についてまずお話ししたい。先日、新宿門の脇にあるインフォメーションセンター1階のカフェの机や壁を、福島県産材を使って、ぬくもりを感じられるように改装した。併せて、単価は高くとも、福島の安心安全な食材を提供するというコンセプトで、福島の復興を支援しようと取り組んだ。
- ・ そのインフォメーションセンターでは、福島の紹介をするだけでなく、ゆくゆくは全国の国立公園の情報発信拠点の機能を持たせたいと考えている。新宿御苑には現在数百万人のお客様が来訪しているが、その半分ほどは外国人である。あそこを使わない手はない、と考えており、そのための財源をしっかりと確保していきたい。
- ・ また、新宿御苑の中についても、トイレを洋式に改修したところである。十分な回答にはなっていないかもしれないが、出来るところからしっかりと進めていきたい。

【アトキンソン委員】

- ・ 公園内の禁止事項についてはどうか。

○環境省より回答

- ・ その辺りについてもひとつひとつ検討していきたい。

【涌井座長】

- ・ 一番大事なのは、ハードだけでなく、マインドの整備もやってほしいということだろうと思う。明治以来の伝統もあるが、検討いただき、外国人の方に居心地いいと感じてもらえるようにしてほしい。さて、指摘にもあった JNTO との関係についてはどうか。

○環境省より回答

- ・ JNTO の件はご指摘の通りなので、頑張りたい。先ほどのお話にあった、「最先端観光コンテンツ インキュベーター事業」については、応募が始まる前から検討メンバーにも環境省が加わっており、国立公園の観光コンテンツについても応募もあると聞いている。引き続き観光庁と連携しながら進めていきたい。

【キャンベル委員】

- ・ アトキンソン委員からも指摘のあった情報発信について、前回出席した際Instagramのアカウントを褒めたが、数ヶ月経過して、褒める気が萎えてしまった。あまりフォロワーがついてきておらず、1アップについて10人くらいしか「いいね」がついていない。絵はがきのように美しい写真、大変適切で面白い英語解説があるが、非常にフラットな観光写真になっている。表現の制限はあるかと思うが、出し方が二次元的、平面的、静的になってしまっている点を改善してほしい。写真に関するアクセスやアクティビティなどの情報も必要。
- ・ 中間評価を受けて今後の取組をどう進めるかということについては、本日の資料説明と自分の現地視察の経験を合わせて話したい。
- ・ ひとつは、民間の活用ということ。日光国立公園に行ったが、非常に賑わっている地域と、そうでない北の塩原の方が二次交通など様々な形でまだつながっていない。地道に改善して行ってほしい。
- ・ またビジターセンターに行くと、平成の森にしても塩原にしても、自然の楽しみ方といった国立公園としての啓蒙的なコンテンツは入っており、アクティビティの情報提供があるが、どう予約するか、どこで道具を借りるかが分からない。一方、近くの観光協会の案内所では、自然については学ぶことはできないが、アクティビティの予約はでき、直接業者につながる。国と民間がうまく連携できていない。私は三つ、四つの地点でそれを感じた。公平性を担保しながら民間力を入れていただきたい。
- ・ 民間活用というが、私は官の側が重要だと思う。観光客は自分で調べ、計画性を持って現地に行っているので、張り紙、フラットな情報提供はいらない。むしろ、接続する・連携する機能が必要。ほぼゼロからの取組みだろうが、重要だと思う。

- ・ キャッシュレスの話が資料にあった。地方の銀行と組んで実施するとあるが、非常に大事だと感じる。これは国立公園だけでなく、日本の観光全体で非常に重要なこと。私が勤めている機関では、先月、有力な信用金庫と協定を結び、私たちではリーチできないパートナーと繋がれるようなプラットフォームを立ち上げた。キャッシュレスを進める際も、異なる種類の業者や法人などとアライアンスを作るには、地域の信用金庫は重要だと感じた。
- ・ 二次交通の問題も確かに重要である。観光税を投入するのであればここだと思う。阿蘇も日光もそうだが、広域な公園の中を移動するにあたり、タクシーだけでは困難な場合もある。
- ・ また、多言語化については座長の強力な後押しがあったかと思うが、日光に行っても、まだ対応状況がばらばらである。東照宮はキャプションが充実しているのに、そこから離れた二社はクオリティが下がる。観光庁が進めている多言語解説整備事業の予算をシェアして、あるいは一緒にとって行って、拡張していくことが急務かと思う。

○環境省より回答

- ・ ビジターセンターのインフォメーション機能が、環境省と観光協会で重複していたり、役割分担ができていなかったりということについては、現地と確認を取りながら改善していきたい。
- ・ キャッシュレスの話について、クレジットカードで買い物ができるというのは、通貨が換金できない地方では特に有用だという話がでているので、進めていきたいと思っている。二次交通について観光税を使うべきという話も、観光庁と相談したい。

【涌井座長】

- ・ 二次交通については、ぜひ総合的な施策の中で考えてほしい。多くの二次交通のバス会社は、地域の補助金を使って辛うじて運行しているような状況。それが生活者にとっては非常に重要な路線であったりする。そこに観光の機能を上手に重ねることで、様々な形での二次交通機関の経営支援の政策にもつながっていくことになる。地域の人口定住や課題の解決と、観光計画に具体的な答えを示すことができるのではないかと思う。
- ・ 先日ヨーロッパに行った時、わざと条件の悪い交通機関に乗ったが非常に楽しかった。一等車、二等車では味わえない人との触れ合いがあり、そういう楽しみが旅行には必ずある。もうひとつ、十年ぶりにキューガーデンを訪れ、そこがいかにも楽しい場所になっているかを感じた。三次交通は格好をつけていない。グリーンのトラクターに箱のトレーラをつないだもの。レンジャーと表示されたジープでつないでいる。みっともないが楽しそう。アクティビティに遊び心がある。全て同じ次元に揃えるのではなく、デコボコがあるが、そこに楽しみがあり、「そこらしい」というのが大きな魅力を作るポイントではないか。

- ・ 一方、統計の取り方がよく分らないところがある。人数にしても実感値としてはもっと来ているように感じる。米子あたりに2,000人のクルーズ船が入っており、出雲大社や大山に多くの人が行っているが、統計上の数字では見えてこない。もう一度統計の取り方について説明いただきたい。その上で、改善の余地があるのであれば、改善してより正しい数字に近づけることが大事。

○環境省より回答

- ・ 訪日外国人の利用者数の推計は、観光庁が空海港で実施している訪日外国人消費動向調査で、訪問地を尋ねる設問の結果を用いて推計している。ただし、調査をしている空海港の数が限られる点が課題。
- ・ 観光庁からは、今年1月～12月は、調査を行う空海港の数を増やすと伺っている。より実態に近づくとは思いますが、個別の国立公園の推計値は県の推計値と比較すると乖離しているという指摘もある。統計は1,000万人目標のベースとなるものであるもので、どういう形の統計が有り得るのかは検討したい。

【涌井座長】

- ・ 手法を変えて1,000万人にするとということではなく、実態に近いところを抑えることが大事である。1,000万人の論拠が不明確だとすれば意味がない。

【石井委員】

- ・ 数値目標については楽観的で、達成できると見ている。やったほうが良いことはたくさんあるが、数字に効くことは限られている。国立公園で言うと、大箱がある。前年度、8公園に準じて認定していただいた3公園、富士箱根伊豆国立公園は約260万人、支笏洞爺国立公園は約90万人弱、中部山岳国立公園は約40万人のインバウンドが来訪している。選ばれた8公園のインバウンドの伸び数は全国平均より高いので、国立公園満喫プロジェクトをそこで実施した効果は出ている。ただ8公園は必ずしも人が多く来る大箱ではないので、そこが伸びても1,000万人にはなかなか届かない。そこで大箱の3つを入れて取り組めるようにしていただいた。
- ・ 富士箱根伊豆国立公園は、富士山にこれ以上登らせるわけにはいかないのに、富士山麓の活用をどうするか。それによって何百万人も増えると思う。
- ・ 支笏洞爺国立公園は、11か12の市町村と隣接している大きな公園。札幌市南区にある定山溪温泉は都心に近い。公園の一部である定山溪に来たら支笏洞爺国立公園に来たことになる。札幌には多くの訪日外国人が来ているので、そこから足を伸ばしていただくことで、100万人、200万人は稼げる。
- ・ 地元の信用金庫の軒先を借りて運営しているインフォメーションセンターが、道路拡幅で建物自体が無くなることから、何とかしてほしいという陳情が札幌市からあった。札

幌から定山溪に向かって行くところに空き地がある。現状だと掘っ建て小屋くらいしか建たないが、国立公園なので何とかならないかという話があった。その後協議会を作っていたと聞いていたが、まだ具体的な進展がない。

- ・ この3公園の活用で300万人、400万人の数字が上がり1,000万に近くなる。そこを集中的にやることが大事ではないか。
- ・ 観光庁の最先端観光コンテンツインキュベーション事業に国立公園の地域から応募があったというのは、私が応募を促した。隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会の方が熱心なので、私から情報提供を行って、申請された流れである。国立公園は魅力的なので適切に情報提供すれば乗ってくれる人もいる。熱心な人に上手く働きかけて動いてもらうしかない。
- ・ 隠岐の電気の件については、中国電力の負担で電気を引いたという例が隠岐の中にある。それを例に是非やってくれないかと地元の方をお願いしている。
- ・ 統計が取れていないことについては、慶良間諸島国立公園は元々、訪日外国人消費動向調査のチェックポイントに入っていなかった。選んだ8公園が入っていないのであれば永遠にゼロなので、お願いして入れていただいた。体感と違うということがあるので、漏れているチェックポイントをまず入れ込むこととしないと、頑張っていることが反映されない。
- ・ 新宿御苑は、外国人が来ているので情報発信する場としては素晴らしい。アトキンソン委員に新宿御苑のアドバイザーになってもらい、徹底的にやりかえることも考えてみてはいかがか。

【アトキンソン委員】

- ・ 観光庁からインキュベートの話があったというのは受身的に聞こえる。本来ではあれば、レンジャー、出先機関が地元に対して積極的に嫌になるくらいにまで情報を発信、応募してもらうくらいの勢いが欲しい。レンジャーの皆さんからプッシュしてもらった方が、税金で人数を増やしている価値が生まれてくるのではないかと。ぜひ意識改革のひとつとしてプッシュ型にさせていただいた方が良く感じる。

【涌井座長】

- ・ 今日いただいた意見としては、内容については意義ないが、問題はこれをどう進めるか、ということ。アクティブな対応とスピードをあげていくことが必要である。さらに言えば、論拠となる統計基盤をしっかりとつくるべきである。ひとつひとつのプロモーションをどのようにしていくのかについては、とにかく時間を味方にするしかない。浸透させていくために、具体的な行動していきましょう、という力強い励ましの言葉が多かったと思われる。
- ・ いくつか課題は明示できたと思うので、修正なしでこれを公開することについて、委員

の先生方からご異議はないと思われる。その代わりに、進めていくということに対して能動的な対応をしていただきたい。とりわけ、管理をしていくことからマネジメントしていくことシフトしていくことについて「楽しげ」にやっていくことが大切である。

○環境省より回答

- ・ 座長から通りまとめいただいた通り、「国立公園満喫プロジェクトの今後の進め方(案)」の案を取った形で今後公表を進めさせていただく。

○とかしき副大臣挨拶

- ・ 本日も色々忌憚のないご意見をありがとうございました。環境省職員も刺激を受け、本当に良いアドバイスをいただいたので、少しずつ提案が充実してきていると思っている。だいたい方向はご承認いただいたということで、それぞれの国立公園でこれを具体的なプロジェクトに落とししていくことをしっかり進めていきたい。
- ・ 今日話を伺い、これは「株式会社国立公園」だと思ったほうが良いと思った。お客様に向かってどのような商品を作っていったら良いのか。マーケティングはどうしたら良いか。宣伝広報はどうするのか。財務状態も良くないといけない。そういったことを考えて、お客様のご意向に応えつつ、お金がまわっていくようにしていくことが大切である。
- ・ 国立公園の利用者は、実は既に1,000万人以上お越しになっているといったこともあるかもしれない。統計については、より適切な数値を導くことができるよう引き続き改善していきたいと思う。
- ・ どのように評価をしていったら良いか。どうなったら成功か、上手くいくのか。常にモチベーションを上げるために、評価軸も作っておいて、駄目なところを改善していくことも重要ではないかと思っている。
- ・ 新宿御苑のような良い資産を上手に活用していくべきであり、改善の状況を見ながら良くしていきたいと思っている。
- ・ 1,000万人という空前絶後の数字を達成できると本日も断言いただいたので、パワーアップして頑張っていきたい。ありがとうございました。

以上